

2026 年 6 月 6 日

学校法人三幸学園
大宮医療秘書専門学校専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 瀧田 健

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 瀧田 健 (医療法人社団協友会 彩の国東大宮メディカルセンター 主任)
- ② 新井 美海 (第 14 期卒業生)
- ③ 栗原 由香理 (飛鳥未来きずな高等学校 大宮キャンパス)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 5 月 19 日 (会場 大宮医療秘書専門学校 302 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 大宮医療秘書専門学校

自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 瀧田 健

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

主体性・成長に重点を置き運営をしていった結果、授業アンケートを向上することができた。

新入生においてはハイフレックス授業やスタディサポート(時間割の中に教員に質問できる時間を入れ込む)を行うことで、勉強面・登校面に不安を抱える学生へのサポートができたことも影響があると考え

また、授業の満足度が向上することで、資格取得や成長実感に繋がっていると感じている。

また、三幸フェスティバルが首都圏と合同になったことで、様々な役割が増え、参加をするチャンスが多くなったことで、やってみてよかった、成長を感じている学生が増えた現状がある、

半面、目標喪失による退学者が増加したこと、またクラス担任への満足度が低下していることが課題となる為、2026 年度は施策を進めていき、学生 1 人 1 人の対応方法などを工夫していく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

通信制高校では月 1 回登校の生徒もあり、週 5 日登校はハードルが高い。週 3 日登校を選択できるハイフレックス制度は、生徒の目線に立った非常に優しい制度である。(栗原委員)

週 5 日通っていた自身の在学時と比べると良い制度だと思うが、社会人になって週 5 日(8:30～17:30)働くようになった際の「拘束時間のギャップ」を強く感じるのではないかと懸念する。(新井委員)

就職後は週 5 日・8 時間勤務に加え、部署によっては立ちっぱなしの緊張感もあるためギャップは大きい。週 1 日登校だった通信制の生徒が就職後に無休で働けている例もある為、現状に合わせた週 3 日スタートは容認できる。(瀧田委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

生徒に向けた教育理念や目指すべき職業人像については、入学時に実施したスタートアッププログラム（入学プログラム）以降、期の区切りの際に伝える機会があったものの、浸透していると言い切れない。

保護者に向けては、対面で入学前に保護者説明会を実施したものの、スクレの活用等がしきれていない為、2026 年度の課題として考えていく必要がある。

② 今後の改善方策

2026 年度は全体像に合わせて、半期ごとのゴールを設定していき、進捗の確認や目線合わせの実施を行っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

在学中、目標は都度言われないと忘れてしまう傾向があった。定期的な再確認が必要。（新井委員）

自院では公認心理師による定期面談（3 ヶ月・6 ヶ月）や、部署ごとの OJT で明確なステップアップの基準を設けてフォローしている。大きすぎるゴールではなく、「ミニゴール」を設定する対策をし、個別アプローチや段階的なステップアップの仕組みがあるとよいのでは感じている（瀧田委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

2025 年度からハイフレックス授業を導入し、オンデマンド授業の実施等、ICT 化に努めてはいるが、全教職員が実働できているわけではない為、課題が残っている。

また、人事・給与体制は整備されているものの、業務の進め方や時間管理に課題があり、改善が必要だと考える。スクルの導入はしたものの、頻度が少なく有効活用には至っていない。

② 今後の改善方策

教職員研修を ICT 関連にし、少しでも多くの教職員が WEB・IT に触れていけるような環境作りを強化していく。業務の進め方・時間管理については OJT 指導者を増員することで改善を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

中高でのタブレット普及率が高いが、活用度合いは高校や担任の IT リテラシー（年齢層など）によって大きな差がある。（栗原委員）

現場では対応時のメモなど、手書きで漢字や略語を正しく書けるスキルが非常に重要であると身に染みて感じた。フルウェブ化よりも紙の良さもある。（新井委員）

病院は高齢の患者が多く、セキュリティの観点からも同意書や予約票など、まだまだ紙が半分を占める。パソコン画面より紙のレセプト（診療報酬明細書）の方が見やすい側面もある。効率化のための情報システム化（ICT 化）は進めつつ、実務を見据えて「紙とペンで文字を書く必要性」も伝えていくとよい（瀧田委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

2025 年度の振り返りに記載した通り、担任教職員の力量が課題となっていたが、個に合ったサポートや対策までやりきることができなかった。2026 年度はサポート体制や研修体制を見直していく。

ただし全体で考えると、卒業生との座談会を実施したことで、教員としてのモチベーションが上がるような取り組みができた為、各アンケートの向上に繋がったとも考える。

② 今後の改善方策

毎週の会議の進め方を見直し、新任教職員のサポートができる環境を整えていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

コロナ禍（5～6 年前）に友人・大人との関係構築の経験が抜けている世代が現在の専門学生。コミュニケーションの経験不足から不登校や通信制を選ぶ子が高校でも増えており、人間関係の構築は日本全体の課題。自校では

若い教員向けに、不安を吐き出せる年次別の研修を計画しているのでよければ参考にしてほしい(栗原委員)

学生時代に学んだビジネスマナーは職員になっても大変役立っている。また、実習室での授業だけでなく、障害物のある場所での車椅子の扱いなど、より実践的な授業があればなお良かったと思うので、教員研修に取り入れてはどうか(新井委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

退学率が上がってしまった現状がある為、2026 年に対策をしていく。

② 今後の改善方策

早い段階での面談を実施し、学生の状況をいち早く把握することで退学低減に繋げていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

学生が「実習（簡単な業務のみ）」の感覚のまま就職し、1 年目から責任ある仕事を任される際のギャップで辞めてしまう例が多い。当院の医事課長も「現場のリアル（1 年目の業務量やステップアップの流れ、クリニックと総合病院での機能の違いなど）」をぜひ学校で直接講義ができると、卒業後のキャリア形成に繋がるのではと考える（瀧田委員）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

保護者との連携の為に、連絡ツール「スクリレ」を導入し、アプリ上で学校からの案内を見られるようにしたが、より良い活用ができず、保護者連携に課題が残る。

② 今後の改善方策

LMS 担当と教務担当にて連携し、発信頻度を上げていく施策を検討する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(3)教育活動・(4)学習成果と合わせてご意見をいただいた為、上記参照。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

防災についてよりよくする上で、必要備品が精査しきれていなかった。

② 今後の改善方策

新たに備品を購入し、整備体制を強化していく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

既卒生募集に関しては課題がある為、再進学者が増加する取り組みを今後検討していく。

② 今後の改善方策

既卒者にとってより業界の魅力が伝わるよう広報活動に力を入れていく。

在校生の再進学者人数や、就職実績を可視化し通信教育では得られない就職サポートや資格取得実績を代々のにアピールしていく

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

今の高校生は大学全入時代に伴い、親も「専門学校に行く＝早くから進路を絞って頑張る決意がある」と捉えている。医療事務は職業イメージが湧きやすく、親にとっても「資格取得・就職サポート・安定性」という面で安心感を提供しやすい分野である為、高校生へのアプローチを改めて検討するのはどうか（栗原委員）

大宮エリアの一般事務と比べると医療事務の魅力が薄れていると感じる。しかし、学校側がこの状況で高校生からの入学者数を増やしているのは、先生方が非常に明るく親身であるという学校の特色（強み）が伝わっている証拠。受付等のコミュニケーションが重視される職場なので、引き続きその強みを伸ばしてほしい。（瀧田委員）

入院担当は月 30～40 時間になることもあり、病院や職種にもよると感じている。全体（外来など）で見れば月 10 時間程度、またはそれ以下の部署が多く、他業種に比べれば圧倒的に働きやすいと感じる為、その観点でも業界の良さが伝わるとよい（新井委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし。

② 今後の改善方策

引き続き順守をしていく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

業界のみに限定してしまうと、課外活動数があまり多くないのが課題である。

② 今後の改善方策

業界内の活動のみならず、地域に愛される学校づくりを目指し、頂いたボランティア活動へは積極的に参加できるように準備しておく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

2025 年度から留学生の受け入れを本格的に開始し、試行錯誤しながらも、体制作りに力を入れてきた。学習成果の評価としての就職支援がこれからではあるが、引き続き注力をしていく。

② 今後の改善方策

同法人の国際事業部や日本語学校と連携を図りより良い運営を目指していく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

自院のグループでも看護補助者(介護系)として留学生を受け入れているが、日本語は N3 レベルでも対応可能としている。特定技能からビザ変更を行うルートなど、様々な就職パターンがあるので、よければ参考にしてほしい(瀧田委員)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回初めてこのような会に参加し、専門学校の実感を感じることができた。高校でも卒業生が将来の進路について相談に来ることも多々ある為、専門学校での学び直しや医療業界の魅力についても伝え、オープンキャンパスや業界理解へ繋げていけたらと感じた。卒業生を送り出す意味でも高校側もより専門学校と連携が取れるように今後も関わりをもっていきたい。(栗原委員)

学生時代に学んだビジネスマナーなど実践的で役立つことが多かった為、是非在校生に日々の学びが今後に繋がっていくことを伝えてほしい。(新井委員)

入口のハードルを下げるだけでなく、この制度を通じて「どう社会人への準備を進めていくか」を伝えていける場とよい。最終的には本人の資質と気持ち次第な部分もあるが、ギャップを減らす為にも現場の実感(1 年目の業務量やステップアップの流れ、クリニックと総合病院での機能の違いなど)を伝える企業連携ができることを願っている。(瀧田委員)